4.

歴史と文化訪問

天壇公園
安徽省博物館
三河古鎮
中華芸術宮
東方明珠電視塔
豫園
南京東路

天壇公園

［北京市］ 5 月 16 日（火）

明の永楽 18 年(1420 年)に建設された天壇公園は、ユネスコ世界遺産に指定されている有名な観光地である。273 万平方メートルという広大な敷地には、明･清代の皇帝たちが天を祭り、五穀豊穣を祈った圜丘(えんきゅう)、皇穹宇(こうきゅうう)、祈年殿(きねんでん)などが配置されている。

北京に到着した訪問団は、天壇公園を見学した。まず初めに圜丘へ行き、そして天心石、回音壁、皇穹宇、祈年殿などを見学した。

公園内の石段の数や、天心石の周りに広がる扇方の石はすべて「9 の倍数」で構成されていた。9 は 10 までの数字の中で陽数(奇数)の最大数で、至高の存在である天体を表す数字であることから、各所でこの「9 の倍数」が設計に取り入れられているそうだ。

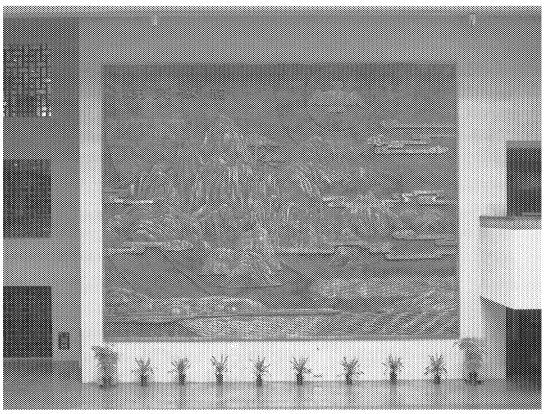
天心石は祭典の際に皇帝が立って命令を出すために造られたということであり、訪問団もその上に乗って、当時の皇帝のような気分に浸りながら、そこから見える景色を楽しんでいた。また、回音壁は壁に向かって声を出すとその声が壁に沿って反対側の場所へ伝わる造りとなっており、訪問団も実際にそれを確かめながら、神が宿っているというかつての伝えを肌で感じた。

最後に祈年殿を通り抜け、中国北京の天壇という広大な建築物のスケールの大きさに感動しながら初日の見学を終えた。

（濱田 会美･山崎 一以）

安徽省博物館

［合肥市］ 5 月 20 日（土）



近代的な建築様式が印象的な安徽省博物館(新館)は、地下 1 階から地上 6 階まで、15 の展示室を備えている。自然、歴史、社会教育のための省級博物館で、館内には約 2,500 点の文化財が展示され、その中の 340 点以上が国宝級の展示物である。中でも「安徽文明史陳列」「徽州古建築」「安徽文房四宝」「江淮撷珍」などの展示は安徽省の歴史を知るうえで貴重な資料である。

博物館の中に入るとすぐ、安徽省産の銅でつくられた巨大な銅画が飾られていた。銅画の中央から上方にかけては黄山と九華山の山々が力強く表現され、下方には安徽省を流れる三つの河が表現され、川沿いには昔の村の様子が描かれていた。銅画の前で記念撮影をしてから、学芸員の方の解説を聞きなが

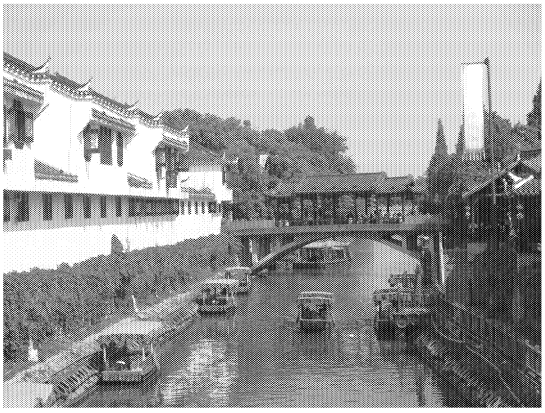
ら、館内を見学した。

全員で「紀元前の中国における青銅文化」および「安徽省の建築の歴史」の展示を見学した後、各自自由見学となった。製紙や毛筆、墨汁精製の歴史などの展示を見学していると、地元の小学生たちが、大学生くらいのリーダーを先頭に館内を見学している様子に出会った。無邪気に見学する様子は日本の子どもたちと変わらないと感じた。

（今村　羊生文・島ノ江　正浩）

三河古鎮

［合肥市］　5 月 20 日（土）



三河古鎮は「3 つの川が流れている古い町」という意味で、合肥市の南方に位置する観光地。「小さな橋が架かり、川があり、村と家々がある風景」が多くの旅行者に愛される、2,500 年近くの歴史をもつ水郷である。三河古鎮は観光地でありながら現在でも人々が暮らしており、多くの商店が立ち並ぶ通りが見られる。また、典型的な安徽風の建築様式で建てられた旧家や商店の様子を見学することもできる。

訪問団は、合肥市内中心部のホテルからバスで 1 時間程移動して三河古鎮に到着した。

昔ながらの商店の様子、小さな路地、望月橋・望月閣や中国のノーベル物理学賞受賞者である楊振寧氏の旧居などをガイドの方の案内で見学した後、船に乗り水路で入口へと戻った。この日は天気がよく気温も高かったが、船から昔ながらの建物や釣りをする人々を眺め、爽やかな気持ちになる見学であった。

（加藤　健次郎・岡本　英昭）

《参加者の感想》

岡本　英昭・・・・・・・・・古き良き中国の町並みと人々の生活を垣間見ることができた。現在でも多くの人が住んでいることを聞き、驚いた。

中華芸術宮

［上海市］　5 月 21 日（日）

「清明上河図」

中華芸術宮は上海万博で使用された中国館を移築して建てられたアジア最大級の芸術館である。中国式の組物とよばれる工法で腕木を組み合わせ、外観は鼎とよばれる中国古代の青銅の大鍋をイメージして設計され、地上 63 メートルもある。その個性的で真っ赤な形状から「東洋の冠」と呼ばれている。展示は中国の現代アートが中心。

中華芸術宮の中に入ると、まずエスカレーターを使って最上階に向かい、「清明上河図」を見学した。これは中国芸術史上屈指の名画の一つで、北宋の宮廷画家の張択端によって描かれたと考えられており、北宋の都である開封（現在の河南省開封市）を舞台にして、庶民の生活が衣食住に至るまで活き活きと詳細に描かれたものである。この時代を知るうえで貴重な絵巻が動画と音を交えて再現され投影されたものが展示されており、見学する訪問団を当時の世界にタイムスリップさせてくれた。しばらくすると日中の風景が夕暮れとなり、夜の町並みに変化していく様子は、とても見ごたえのあるものだった。

その後は各自が現代アートを鑑賞して楽しみ、古代から現代にいたるまで、中国には膨大な芸術作品と文化が栄えていることに気づかされた。作品の中に

は中国の子どもたちが描いた絵が飾られており、ほっとした気持ちで鑑賞することができた。

（今村　羊生文・井口　将夫）

東方明珠電視塔

［上海市］　5 月 21 日（日）

テレビタワーとしてはアジアで一番の高さを誇り、上海を代表するシンボル的な存在である。高さは 468m で、展望台は 350m、263m、259m、90m の高さに 4 ヵ所あり、上海の町並みを見渡すことができる。特に床がガラス張りの全透明観光廊では、スリルあふれる体験をしながら雄大な景色を楽しめる。

中華芸術宮から東方明珠電視塔に移動した訪問団は、最初にタワーの1Fにある上海城市歴史発展陳列館を見学した。ここは上海の自動車産業の歴史と、上海の市民と街の発展史を詳しく再現した博物館のようなものであった。

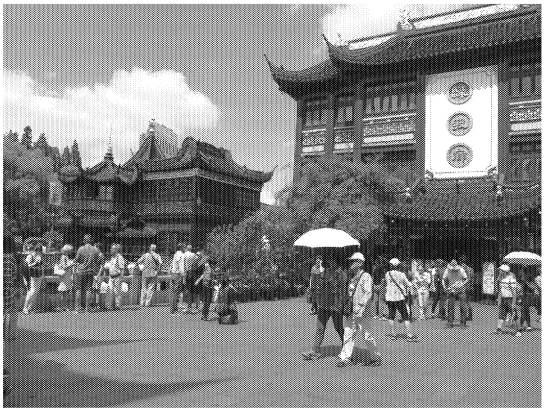
発展陳列館の見学後、エレベーターで一気に 263m の高さにある展望台へと上がると、360 度パノラマの広々とした上海の町並みが広がっていた。そこから階段を降り、訪問団は 259m の高さにあるガラス張りの全透明観光廊からの眺望を楽しんだ。

その後、展望レストランで上海の夕焼けと夜景を眺めながらの夕食となった。眼下に広がる上海の美しい街並みと夜景が心に強く焼きつき、これまでの中国の思い出を話しながら上海の最高の夜を満喫することができた。

（今村　羊生文）

豫園

［上海市］　5 月 22 日（月）



「豫園」とは「楽しい園」という意味で、もとは四川布政使の役人であった潘允端が父のために贈った、江南を代表する古式庭園である。明代に 18 年の歳月を費やして造営された。

現在は観光地として豫園商城と呼ばれ、庭園を囲むように土産物屋や飲食店があり、多くの観光客でにぎわっている。

全員で昼食に小籠包を食べ、残りの時間は自由時間となり各自散策を楽しんだ。お土産を買ったり、庭園を散策したり、豫園の外にある庶民的なお店を訪れたりと思いおもいに過ごした。

（佐野　純・小畑　幸一）

南京東路

［上海市］　5 月 22 日（月）

豫園見学後、上海の繁華街である南京東路に向かい、各自自由行動となった。

繁華街の様々なお店を見て回るほか、景色の美しい外灘まで足を伸ばす参加者もいた。

（佐野　純）

5. 成果と今後への活用

Aグループ

これからの中国を見つめる旅

多摩市立大松台小学校

濱田　会美

小学校の英語教諭として、ことばを教えることよりもっと大切にしていることがある。それは世界のことばや文化を学び合うことで、世界は広くて狭い、遠くて近い存在であることを子どもたち自身が実感し、世界を知るきっかけをつかむ学びである。日々の授業の中で、英語を話す国のみに児童の興味が偏らないよう、幅広い文化理解、近隣のアジアの国について考える機会をもち、多文化共生社会づくりに向けた視点を大切にしてきた。

地域で暮らす外国の方の思いや願いを大切にできる児童を育てたい、という想いでプログラムに参加した。北京市・安徽省・上海市の教育部や教育庁、小中学校・高等学校・特別支援学校への訪問を通して中国の熱心な教育を知り、中国の文化や教育への理解が深まった。中国の学校の最新の設備や幅広いカリキュラムに圧倒されると同時に、中国社会が急成長する中で、深刻な混乱や苦難の中にいる人がいるような気がした。この国の今の現実をもっと知らなければと思った。

[今後への活用：学校において]

◆ESD を通した総合的な学習の時間では、地域の国際化を自分事として捉え、相手の立場に立ち、中国籍の留学生が地域で楽しく暮らしてもらうための提案や提供ができる授業実践を行う。

◆道徳では、外国の同世代の子ども達がどんな生活をしているのかを知り、自分や家族を見つめ直すきっかけを子どもたちの中につくっていきたい。

◆外国語活動の時間に、ことばと国際理解をテーマに扱った授業づくりをする。

◆「国際協力」「相互依存」「文化理解」「環境」「食」など、学習内容にそったテーマで児童同士のメールのやり取りや、スカイプを通じた交流などの活動を深めていきたい。

◆「2020 東京オリンピック・パラリンピック教育」の一環である「世界ともだちプロジェクト」における本校の応援国は中国である。本プログラムでの教職員の交流をきっかけに、中国の文化や言語を学び、絵画交流や手紙のやりとりを実施していきたい。

[今後への活用：その他において]

◆多摩市教育委員会が運営している国際理解講座、NPO 法人アクションが主催している武蔵野市の土曜学校「世界を知る会」、港区内の小学校でのインターナショナルデーの企画等に講師として関わっている。それぞれ地域の小学生を対象に、外国について学ぶ講座を行い、国際理解・交流を行うプログラムである。今後機会があれば、中国の文化紹介や切り絵の活動を行い、中国について学ぶ講座をもちたい。

◆開発教育協会 DEAR の会員であり、今年の全国研究集会では、分科会を担当している。その分科会では、来るオリンピック・パラリンピックを多様な切り口からとらえ直すことで、開発教育的な実践の在り方を考えていく。進行役としてミニワークショップ（オリパラクイズ・世界地図で読むオリパラ・ピクトグラム・世界の言葉・オリンピックの光と影）をきっかけに、参加者の方々とオリパラ実践を作っていく。その中で、中国の文化理解につながるような活動も紹介していく。

[中国との教育交流についての具体案]

本校の児童は、日常的に外国籍の児童と学習したり遊んだり、親しく接しているが、学校を一歩出ると、地域に暮らす人々と近所に住む外国の方々との関わりが少ないと感じている。

そこで、中国籍の保護者の方や日本語学校に通う留学生との交流を通し、地域に暮らす外国の方とのつながりを意識させたい。「〇〇さんのために提案できることを考えたい」と地域で暮らす外国の方の思いや願いを大切にできる児童を育てたい。

中国での研修をもとに、2 学期以降の総合的な学習の時間では、地域の国際化を自分事として捉え、相手の立場に立ち、海外からの留学生が地域で楽し

く暮らせるような提案ができる授業を計画している。

国際理解の第一歩は、身近な人々に関心を寄せること。外国の同世代の子ども達がどんな生活をしているのかを知り、自分や家族を見つめ直すきっかけを子どもたちの中につくっていきたい。

そのために、中国の小学校とスカイプで交流し、互いの学校紹介をしたい。また、切り絵の交流、学校図書館との交流でオリジナルの絵本を作って贈り合うなど、積極的に交流を図っていきたい。

謝謝！

横浜市教育委員会 事務局 指導部

国際教育課

蛭田　ヤマダ キヨコ ベッティー

横浜市の小中学校には外国から毎年たくさんの児童・生徒が編入します。昨年（平成 28 年）日本語が全くできない状態で来日した子どもたちは600 人以上でしたが、毎年増えています。その中では、中国につながる子どもが一番多いです。この子どもたちが来日する前、母国でどんな教育を受けて生活していたか情報があれば、教える側には役に立ち、子どもたちの苦労が軽減されると以前から思っていました。

中国政府日本教職員招へいプログラムでは、学校訪問を通して中国の学校教育を知ることができました。どの学校も想像以上に設備が整っていました。教員は子どもの個性を伸ばして特色ある教育を提供するために時間をかけて授業を準備し、熱心に教鞭をとって、自分たちも向上に努めていると感じました。それに応える子どもたちは意欲を持ってとても真剣に学習に取り組んでいました。

教育制度の理念について知識を得ることはもちろん、中国という国を多角的に見ることができました。

グローバル人材を育てることが課題になっている今、知識を深めるため学校・教員間の交流と相互理解が重要です。

今回は非常に有意義のある経験をさせていただき、私自身も他国の教育に目を向ける必要性をさらに感じました。

［中国との教育交流についての具体案］

今年（平成 29 年）の秋には中国からの訪問団を本市へ招いて横浜市の教育制度について説明を行ってから2から3カ所の教育現場を訪問していただきたいと思っています。

説明会では中国語に翻訳されている横浜市の学校案内と本市の観光施設・歴史に関するパンフレットをお渡しする予定です。

小学校訪問では一般クラスと家庭科・図工・音楽・国際理解の授業参観、給食を子どもたちと食べていただきながら交流、掃除の見学、子どもたちの演奏会などの鑑賞など色々と計画を立てています。中学校では部活動見学も考えています。

どの訪問先でも地域の特性を紹介し、体験していただきたいです。

また、教員同士の意見交換・交流会も行います。互いの理解を深めるため中国語のできるボランティア・保護者を募って通訳として活動してもらうつもりです。

日本の学校で大勢の中国人が学んでいることは、中国の教育部でもあまり知られていませんでした。中国の先生方にはそんな子どもたちに会って、交流していただきたいとも思っています。

横浜市の学校ではたくさんの事業・プログラムで様々な国の教職員、視察団体等を受け入れています。ACCU を通して、今後は中国だけではなく他の国の方々を毎年受け入れることが可能であれば、互いの児童・生徒と教職員に貴重な経験になるでしょう。

皆さんを温かく受け入れて、楽しくて忘れられない思い出になるような日本滞在を提供したいです。

隣国への新しい理解

桜美林中学校高等学校

今村 羊生文

今回初めて中国を訪問し、多くの素晴らしい経験をすることができました。普通であれば訪ねることの難しい教育現場と教育行政機関を訪問し、児童・生徒、教職員、教育行政の方々と交流できたことは貴重な経験でした。どの学校も特色ある教育をめざして熱心に教育目標の実現のために努力されていました。明確な教育目標を生徒も教職員も共有し、教育文化を作り出していこうとする一体感を感じました。

中国の教育は、国家の明確な目標について、質と量ともに公教育の中で達成を目指しています。さらに、地域の実情や学校の特性に応じて、個性溢れる教育の実現にも取り組みつつあります。まさに社会全体で教育実験を行っているようにも感じました。

隣国の中国がどれほど教育と日本との友好に情熱と希望を注いでいるかを理解できました。私たちもそれに応えていければと強く思いました。そして中国の教育現場を通じて、改めて自らの教育活動の役割と意義を考え直す機会となりました。

[今後への活用：学校において]

まずは HR の生徒と授業担当クラスに向けて中国での体験や、中国の実情を報告したいと思います。それを通じて諸外国への関心と理解を広げるきっかけとなればと思っています。

本校は国際交流を大切な教育の柱としていますが、まだ一部の生徒が海外に留学する程度にとどまっており、教育全体の中での国際学習や、異文化理解の学習や行事が確立していません。世界の文化や諸宗教、言語や民族など、多様な世界の実情を理解して、私たち人類が共存していくための教育的なプログラムなどを作り出すことができればと思っています。

[今後への活用：その他において]

個人の活動と研究範囲になりますが、世界の価値教育の在り方の研究の一つに、中国の道徳教育の研究が考えられます。「思想品徳」といった中国の道徳教育の実践と取り組みについてさらに調べてみたいと思います。徳治主義の伝統のある中国が、社会主義国家としての理念をどのような道徳的な価値教育を通じて展開するかに興味を持っています。また人権や民主主義といった概念は、中国においてどのように受容されたり、伝えられたりしているのか、その実態を知りたいと思っています。そのことを通じて、道徳をどのように教えるのか、または、道徳はどのように個人の生活と内面に受容されていくのかを考えてみたいです。具体的な諸外国との比較研究から、道徳（価値教育）の教育方法論の開発につなげていければと思います。

[中国との教育交流についての具体案]

現在のところ北京の陳経綸中学校と、北京外語大学附属外国語学校の姉妹校間の訪問交流にとどまっており、それ以上の拡大した交流などには踏み出してはいない。しかし、ユネスコスクールへの参加をきっかけとして、新たな教育共同体としての仲間入りと出会いを模索しているところである。そのためには学校の内部における、新しい教育活動への理解と活動や学びの創造を組み立てていくことが必要である。

例えば教科の中で国際交流を主眼にした単元を取り入れたり、総合活動やHR活動のなかに新たなテーマを考えたりするなど、国際交流を肌感覚でもって考える場が必要である。単発で何かを取り組むことはできても、持続的かつ継続的な教育の展開を目指していくには腰を据えて取り組まなければならないと思う。まずは足掛かりとして、中国教職員団の受け入れをきっかけとして学内における中国への関心と理解を深める機会とできればと思う。

「愛党愛国愛人民」「今天到光明一生有光明」

千葉県立特別支援学校市川大野高等学園

加藤 健次郎

今回の中国政府日本教職員招へいプログラムでは中国政府のご厚意により中国教育部をはじめ、北京市、安徽省、上海市の小・中・高等学校、特別支援学校を訪問させていただきました。授業を参観し諸先生方の話を伺う中で中国の教育理念や制度、教育方法、具体的指導について学ばせていただきました。中でも強く印象に残っているものとして、校門前などに掲示されている生徒心得のようなものにどの学校も「愛党愛国愛人民」と書かれていました。日本ではなかなか目にしない言葉ですが、中国の子どもたちは大切にするよう教育されており、この両国の考え方の違いはとても大きいと感じました。小さいころから常に国のことを第一に考え、自分たちは自分の国をどのような国にしたいのか、国全体、国民全体で一枚岩になり進む勢いを肌で感じることができました。これは中国人の筋の通った人格形成にも関係しているのではと考えさせられました。

２点目は、北京市光明小学校の校舎に書かれていた言葉と、校長先生が話してくださった内容です。

「今天到光明一生有光明」

「いくら教育設備にお金をかけても、いくら立派な教育制度を作ってもダメだ。子どもたちには設備・制度ではなくやはり【いい先生】が必要だ。」

とても大切なことだと共感すると共に、子どもたちの明るい未来のために、私自身も子どもたちが必要とする「いい先生」の一人になれるよう、毎日を子どもと本気で向き合っていきたいと強く感じました。

プログラム行程中終始随行してくださった安徽大学の王永東副教授、安徽省滞在中私たちの食事やあらゆることの心のこもったマネージメントをしてくださった安徽省教育庁の王炳成副秘書長をはじめ、お世話になった全ての方々に感謝申し上げます、謝謝大家。

[今後への活用：学校において]

・職員に向けて、中国の教育事情や教育実践などについて写真や動画を活用しながら紹介する。

・今後、本校が受入校になった際には、本プログラムで学んだことを生かして、日本らしいおもてなしの心を大切にした受け入れができるよう計画する。

［中国との教育交流についての具体案］

合肥特殊教育センターを訪問した際に、知的障害学級の教員と連絡先を交換することができた。お互いの学校の相違点や共通点、障害者に対する考え方等、様々な話を今後も連絡を取り合い情報交換できればと考えています。

また、2 学年の情報科の授業の中で生徒同士がスカイプやメールなどで、特殊教育センターの子どもたちと直接交流する機会を持ちたいと考えています。

教育のグローバル化と伝統文化

桐朋女子中・高等学校

桑原 昇

中国は日本同様、知識偏重の教育を脱し、世界標準の能力や姿勢（コンピテンシー）を育てる教育に転換しようとしているのだということがわかり、教育のグローバルスタンダードが形成されつつあるということを実感した。児童生徒の活動や対話に重きを置く授業や、創造意欲を掻き立て豊かな体験の場となる充実した設備、人格的な成長を促す芸術教育などは、児童生徒の能力を総合的に高め、創造的な人材を育成することにつながると思う。

グローバル化の一方で、中国が教育の場で伝統文化を非常に重視していることも印象的であった。訪問先で目にした出し物のほとんどが中国の伝統文化に基づくものであったし、学校のいたるところで『論語』の一節が掲示されていた。伝統文化による教育は、児童生徒に自国の文化に誇りを持たせるということにとどまらず、人格形成にも大きな役割を担っているように感じた。

私学としてグローバル化の時代に対応した教育をつくりあげていくにあたって、学ぶことのとても多いプログラムであった。

［今後への活用：学校において］

生徒・教職員への報告、教育課程の編成、通常の授業、生徒理解の 4 点において活用していきたい。生徒に対しては授業時などを利用して中国の学校で見てきたことを紹介し、メディアの流す中国のイメージが断片的なものでしかないことを伝えたい。教職員に対しては、中国の教育課題や学校の様子などについて紹介することで、教育の質を高めていくための材料を提供できればと思っている。また、自分は学校の教育課程について考える立場にあることから、中国の学校で見聞きしたことを参考に、私学として目指していくべき方向性や具体的なカリキュラムについて考えていくつもりだ。通常の授業においては、とくに漢文の授業において中国の文化や中国の人の人柄などを紹介することで、授業の内容を深めることができるのではないかと思う。また、両親が中国人である生徒や中国で長年過ごしてきた帰国生も担当しているため、そのような生徒に対する理解を深めることもできたと思う。

［今後への活用：その他において］

プログラムに同行した先生方と知り合えたことは、自分にとって貴重な財産になると思う。継続的に連絡を取り合いながら、教育について語り合うことができるとうれしい。個人的には、中国の文化に対する関心がますます強まった。是非再訪し、様々な文化財を見学したいと思っている。

［中国との教育交流についての具体案］

中国教職員招へいプログラムにおいて、中国の教職員の方々をお迎えする。校長・副校長ともに受け入れについて前向きに考えており、実施できる可能性は高い。本校は、中高一貫の女子校であり、女子の特性を考慮した教育を行っている。プログラムの途中で、中国には女子校がないということを知った。中国の先生方に、別学の良さについて是非知っていただきたいと思う。

中国の生徒との交流についても考えていきたい。たとえば、本校では選択科目として中国語を設置している。中国語の授業において、スカイプや電子メールなどによって中国の生徒とコミュニケーションをとることは可能なのかもしれない。

本校は初等部から大学までを有しているので、小学校から大学（大学は特に演劇、音楽分野）まで、幅広く児童、生徒、学生を通した交流が可能である。短大演劇科では中国公演を行ったこともあるほか、中高でもかつて中国からの教員を招くなどの交流を行っていた。中国でも日本語の授業、本校でも中国語の授業を行っており、日中友好のためにも、教員、児童・生徒双方の人的交流が必要だと考えている。

日中の歴史担当者同士で語った歴史問題

同志社香里中学・高等学校

西村 克仁

教員同士の交流が出来たことが、本プログラムに参加して最も有意義なことであった。とりわけ、合肥第

八中学では私と同じ歴史の教員と話をすることができた。両国間の微妙な問題についてこちらから敢えて触れることはしなかったが、先方から積極的に話をしてくれた。

同校は李克強首相の出身校と言うこともあり、安徽省でも有数のレベルの高い学校であったが、日本との間の歴史問題について話をする中で次のように語ってくれた。「生徒たちの日本について印象は二つ。ひとつは勤勉で経済が発達している国。そしてもうひとつは中国を侵略した国。ただ、本校の生徒ともなればこの二つを異なるものとして認識している。生徒の中には実際に日本に行った者もおり、現在の日本がかつてのような軍事的野心のある国ではないことは充分理解しているだろう。」

日本国内では単純に「反日」が唱えられる中国世論であるが、そうした部分もありながらも、個々人のレベルはもっと現実的で柔軟であることを感じた。

[今後への活用：学校において]

上海市甘泉外国語中学の日本語選択の生徒たちに日本語で日本に対する印象や日本の生徒に対する質問を書いてもらい、それを教材に日本の生徒たちに討論などをさせることが出来ないかと考えている。同校の生徒の日本語能力はかなり高いため、言葉の壁を感じずに日本の生徒が同世代の中国人の考え方に触れることができ、幅広いテーマで対応が可能であろうと考えられる。日本のマスコミで取り上げられるようなある種のフィルターがかかった中国ではなく、生の教材として地理や歴史などでアクティブラーニング形式の授業で活用したい。また、訪問中に撮影した動画や画像は授業で中国を紹介する材料としてすでに活用している。中 3 の授業では中間試験後の 1 時間を割いて今回の訪問がどのようなものであったかを話す材料とし、生徒の反応もよかった。

[今後への活用：その他において]

上海市甘泉外国語中学の日本語選択の生徒たちに日本語で日本に対する印象や日本の生徒に対する質問を書いてもらい、それを教材に日本の生徒たちに討論などをさせることができれば、それを日中生徒意見交換として授業実践のレポートという形で学外に発表出来るのではないかと考えている。

[中国との教育交流についての具体案]

本校では国際交流は国際交流委員会が所管しており、これを通して学校間の交流や語学研修プログラムを実施している。学校間の交流では教員・生徒の相互訪問やホームステイなどを実施している。中国語圏は教員の施設見学を受け入れたことがある程度で、学校交流は経験がないが、国際交流は本校の重要な柱であるため英語圏の学校との交流のノウハウを生かしての実施が可能であると考える。ただ、コミュニケーションをおこなう上で中国語を解する教員や生徒がほとんどいないため、英語での交流となると思う。また、本校では高校生で校内選考を受けて長期留学（1年間）にいく生徒が年間数名いるが、これまで英語圏に限らずフランスやドイツ、ブラジルなどにも生徒を送ってきた。中国語圏はまだ一人もないが、上海市甘泉中学は本校と関係ある同志社大学と提携している上、ハード・ソフト共に充実しており、中国語圏への希望者が出た場合の受け入れ先としては可能性があるのではと感じた。

また行きたい！

横浜市立小机小学校

榮谷 智之

一部の情報をもとに勝手な想像や偏った考え方を持つことがある。また、それがいじめにつながっていることも少なくない。中国に関しても、自分自身偏った見方をしていたのかもしれない。実際に関わり、相手のことを知ることが大切だということを今回の中国訪問で実感した。

中国の教育施設は、学生や教員が授業に集中しやすい設備が整っており、教育に力を入れていることには驚かされた。また、道徳を大切にし、子ども主体の学びを行っていることや健康やイノベーション教育の充実を図っていること、そして、子どもを伸ばす為には、教員の質を向上させなければならないことなど、目指している教育に共通点が多いということもわかった。

中国について知ることで興味が深まり、もっと知りたいと考えるようになったし、何よりも中国の方や文化が好きになった。そして、自分の教育観や日本の文化についても見つめ直すよいきっかけとなった。

交流することのよさは、お互いの文化を受け入れるきっかけができることだと思う。1 度きりでなく、何度か交流することでさらにお互いのことを理解できると思う。中国語を勉強して、また、行きたい。

[今後への活用：学校において]

日本にいても、みんなそれぞれの家庭の文化で育ち、共通点も相違点もある。お互いの違いや文化を知り、受け入れることができるようになるとよいと思う。そのためにも子どもたち同士の関わり、交流を大切にした授業や生活を送れるように支援していきたい。

また、異文化交流は、相手を知り、自分を見つめ直すよいきっかけになる。積極的に交流ができる機会をみつけ、子どもたちが視野を広げられる場をつくっていきたい。

11 月には、中国の教職員が本校に訪問することが決まっている。日本の教育の現状を知ってもらい、日本を身近に感じてもらえるような交流プログラムを検討していきたい。

[今後への活用:その他において]

今回の訪問で感じた中国の文化やよさを保護者や地域の方にも伝えていきたい。中国教職員招へいプログラムにおいて、本校を訪問される際には学校のみではなく、地域の特色を生かして交流ができないか検討していきたい。

また、自分自身が言葉の壁を大きく感じ、中国語を勉強したいと思った。そして、いつかまた中国や他の国に行ってみたい。自分をもっと磨き、視野を広げることがこれからの教員生活において生かされると思うし、たくさんのことを子どもたちにも語れると思う。

今回の訪問では、様々な価値観があって当然ということを学んだ。ひとつの見方や視点にとらわれず、いろんな角度・視点から子どもたちの教育について考え、支えていきたいと考えている。

[中国との教育交流についての具体案]

＜授業交流＞

7 月に北京市和平小学校より、教職員・児童・保護者が来校予定。4 年生の学年を中心に交流をしたい。内容は下記のようなものを検討中。

① 音楽:合唱・合奏交流、昔遊びの歌や手遊びなど
② レク:じゃんけん列車などの簡単なゲーム
③ あいさつ:自己紹介など

＜中国教職員訪問＞

11 月 17 日(金)予定。授業参観、給食交流などを中心に検討していく。

(例)

・ 運動会(9 月実施)での演技(ソーラン節)や合唱などの発表
・ 秋遊び(生活科)・・・どんぐりネックレス、どんぐりトトロづくり
・ 習字の授業見学、通常の授業見学
・ クラス数名ずつのグループに分かれて、各学級で給食交流
・ 掃除の様子の見学　など、教育委員会や他の訪問学校と相談しながら内容を決めていく。

1回の交流ではなく、スカイプやメール、手紙のやり取り等で、今後も交流ができるとよい。

得難い経験を実践に生かす

札幌市立定山渓中学校

佐久間 勇史

今回のプログラムは、6 校にも及ぶ学校や教育部・省庁訪問だけでなく、中国の気候や風土、歴史・文化をも体験できる内容になっており、まさに中国を肌で感じることができた 8 日間でした。素晴らしい経験をさせていただき、感謝しております。

中国教育部の教育に対する現状認識と課題への対応策はどれも的確であり、広大な中国をまとめあげ、さらに発展させようとする強い意志を感じました。訪問した各校の先生方やスタッフの方々は日本の教職員同様に熱意があり、友好を深めることができました。学校施設は質・量共に圧倒されるものでした。

最も有意義だったのは上海市甘泉外国語中学において授業に参加し、生徒と色々な話ができたことでした。生徒の中には札幌市内の大学を志望する者も複数いて、私にとって地元の良さを見つめ直す非常に良い機会になりました。

この経験を今後の授業や特色ある教育課程の編成、中国の方々との交流に生かしていきたいです。

[今後への活用:学校において]

・ 中学校社会科における授業での活用
　下記の視点に基づいた授業を考えていく。
　ア. 中国の気候・風土、工業化と経済発展(1 年 地理的分野)
　イ. 結びつきを強める世界と日本(2 年　地理的分野)
　ウ. グローバル化と日本経済、新興国の台頭(3 年 公民的分野)
・ 校内研修会等での発表

[今後への活用:その他において]

・ 研修会での活用
　所属団体での研修会等で、機会があれば発表する。
・ 保護者への報告
　PTA 会議において中国の様子を紹介することで、地域における中国の方との交流の端緒にしたい。

[中国との教育交流についての具体案]

本校は、北海道札幌市という中国の方々にとって非常に魅力的で自然豊かなところにある小規模な学校(全校生徒 18 名)である。そのため、教育課程も柔軟に編成することが可能であり、中国の方々が訪れ

たいのであれば前向きに検討することができる(15 人以内)。温泉宿泊施設も近隣に多数あり、中国人スタッフも常駐し、中国からの観光客も多数受け入れている実績を有している。

実践例として以下の学習内容・交流(海外累計 11 か国の方々との交流実績あり)を提案したい(通訳が付くことが望ましい)。

① 定山渓温泉の足湯に浸かりながらの交流
② 定山渓温泉を中学生が英語(日本語)で観光ガイドを行う
③ 中学校が有する「夢の森」での森林学習や森林保護活動、ESD 教育
④ 給食交流
⑤ 卓球などのスポーツ交流

体感して対話して学んだ中国

箕面こどもの森学園

佐野 純

中国という国を体感すること、そこで学校間の交流のきっかけを掴むこと、この 2 つが参加するに当たっての目標だった。本プログラムの話を聞いた時点ではほとんど知識はなかったので事前に調べたり考えたりしていたが、やはり疑問がたくさん残っていた。国家の存在、人口規模や歴史の違い、実際に行ってみるとそれをまざまざと感じることができた。また、メディアが報道する様々な出来事などから、あまり良い印象を持てずにいたが、実際にその地で過ごし人と関わると、国の外から見ている印象とは違い、とてもあたたかいものを感じることができた。また、ご一緒した日本の教員の方々とプログラムを通して様々なことを話し、特に以前から中国を知る方々のお話を聞いて考えることで、中国をより深く知り、相対化して日本のことを改めて捉え直すことができた。この体験を、子どもたちとの関わりの中で活かし、交流を形あるものにしていくのがこれからの目標である。

[今後への活用:学校において]

中学生たちに訪問の成果を報告し、中国のことを知り、興味を持つきっかけをつくる。また、毎年行う海外研修の行き先の候補にし、子どもたちの希望があれば具体的な訪問先を検討していく。それ以外にも、中国のことに興味を持つ子どもがいれば、今回のプログラムのことをより詳しく伝え、場合によっては訪問した学校とコンタクトを取る。

他の学校関係者に今回のプログラムで学んだことを共有し、中国の教育や日本の教育について考える機会を設ける。

[今後への活用:その他において]

学校外の一般にも開かれた形で報告会を実施する。今回参加した他の教員の方々と連絡を取り合い、情報交換をしていく。

[中国との教育交流についての具体案]

海外研修先として検討し、条件が合えば、中学生たちと訪問する。

実施の可能性については、毎年行う予定のプログラムであるため毎年チャンスはあるが、学校としては子どもたちの意思も尊重しつつ決めていくため、不確定である。

教員間の交流については、学校の形態が大きく異なる部分があるため、現状では難しいと感じているが、中国の教育の動向によっては、私たちのような学校に興味を持ってもらえるようになることも考えられる。

私たちの学校が参考にしているフレネ教育では、学校間通信というプログラムがあるので、その形式を参考に、手紙やメール、創作物や物品のやり取りをするということも考えられる。

中国をよりよく理解するためのプログラム

自由学園男子部中等科・高等科

高野 慎太郎

本プログラムは次の二点において有意義であった。一つは中国の教育の現状を知ることができたこと、もう一つは中国の現状を知ることができたことである。

中国の教育の現状把握として、上海市甘泉外国語中学をはじめとする様々な公立学校を見学することができた。見学したすべての学校では、立派な施設で優秀な教員によっていわゆるエリート教育が行われていることがわかった。＜大学受験(高考)＞を基本として行われている中国のエリート教育の実情を知ることができた点が大変有意義であった。

一方で、中国でそうした教育を受けることができるのはいったいどんな人々なのかという疑問は依然として残る。一部のエリートと多数のそれ以外の人々が同居しているのが中国という国の現状であるということも分かった。

本プログラムによって、このような中国の教育と中国について総合的に知ることができた。大変有意義な研修であった。

[今後への活用：学校において]

まず、礼拝・HR・教科などの場面において、動画、写真などを用いて中国や中国の教育について得た見聞を生徒、教職員に対して広く共有する。同時に、教職員研修等の場面において、中国と中国の教育についてより専門的な知見を共有するとともに、それらを活かした教育実践について提案、共有するとともに、意見を募り、教育実践に役立てる。

また、帰国生、留学生の担当者として、中国をはじめとする諸外国からの生徒に接する際の生徒理解、保護者理解に役立てたい。

[今後への活用：その他において]

所属する学会、研究会等で発表するなどして広く知見を共有する。また、本プログラムを踏まえた実践を行い、その取り組みを共有する過程で、本プログラムでの学びをより大きなものとしていきたい。

[中国との教育交流についての具体案]

まず、中国からの教職員団の受け入れを行うことができる。授業やカリキュラムの公開をはじめとして、本校の教育実践を共有した上で、中国の教職員の方と意見交換や議論を行うことができる。取り組みの方向性として、たとえば、平和を実現する力をはぐくむことをテーマとして、日中の合同カリキュラムを作成し、実施するなどの取り組みも可能である。

次に、授業を通した交流が可能である。漢文の学習や日本語の学習、その他などの場面においてICT機器を用いて、日中の生徒同士の交流をすることができる。

個人のつながりは、作ることができる！

奈良市富雄第三小中学校

八木　翠

「個人のつながりは、作ることができる！」

これがプログラムに参加し、一番強く感じたことである。博物館で6年生の少年が「日本人を初めて見た。日本に興味があるから話したい。」と話しかけてきてくれた。少年だけでなく、大学生も同じように声をかけてくれて、学校の外、つまり一般の方の中にも日本に興味をもっている方がいるということを知ることができ、とてもうれしい出会いとなった。

訪問校で出会った教職員の方々や子どもたちは、日本と変わらない温かい雰囲気であった。安徽省の屯溪路小学校では、本校と同様、学び合いの授業スタイルを大切にしていたり、読書推進など様々な取組をされているという話を聞いて、日本でも中国でも大切なことは変わらないのではないかと感じた。

国レベルでは難しいことがあっても、個人のつながりは自分次第だと強く感じた。私自身がこれからもつながりを作っていくとともに、子どもたちにもその機会を多く作っていきたい。

[今後への活用：学校において]

学校見学で見たことや聞いたこと、中国の様子などを、パワーポイントにして紹介する。児童・生徒には、中国の子どもたちの様子を見せて、日本と同じところや違うところを伝えて、つながりを作りたいと思えるようにしたい。

[今後への活用：その他において]

ほかの学校関係者や、友人などにも中国での経験を伝えたい。

[中国との教育交流についての具体案]

本校は、オーストラリアのハリソンスクールと交流を行っている。スカイプ交流や手紙や作品の交換、中学生はメールでやりとりをするなど、様々な形で行っている。ハリソンスクールの教職員や生徒、保護者が日本に来た時には児童・生徒の家にホームステイもした。

中国の学校とも、同じように交流ができればと考えている。お互いに行き来することは費用の面など課題もあるので実現は難しいが、負担にならない程度にメールや作品の交流など、児童・生徒間の交流をしたい。

B グループ

中国の教育現場で感じたこと

狛江市立和泉小学校

古松 ゆり子

中国の教育現場で共通して感じたことは、子どもたちのために学校や家庭、地域が連携して教育を行っているということだ。学校は子どもが意欲をもって取り組めるようにカリキュラムを組む・家庭は学校の教育に信頼をおき、協力する・地域は優秀な子どもが育つように支援をするといった相互の連携がしっかりととられていた。日本もそうであるが、中国はその信念が強く、そのための環境を整えるなど徹底されていると感じた。教育は学校だけで成り立っているわけではない。学校・家庭・地域が連携し成り立つものである。中国のように信頼される教育を行っていかなければならないと改めて感じた。

今回は私にとって初めての中国訪問であった。普段テレビや新聞などで得る情報しか知らなかったため、中国のイメージが変わる訪問となった。多くの方が言っていた「日中の友好は教育の場で築ける」という言葉はとても印象に残っている。今回の研修を通して感じたこと・学んだことを日本で伝えていきたい。

[今後への活用：学校において]

○教職員に報告し、中国の教育への理解を深めるとともに、よいところを学校全体で実践していく。

○クラス・学年・学校全体の児童に報告し、児童が中国へ興味を持てるようにする。

[今後への活用：その他において]

○研修会などに参加し、中国に関する学びを深める。

[中国との教育交流についての具体案]

○教職員との意見交流

○授業の参観

○給食の参加（児童と一緒に食べる）

○児童との交流

○ICT 機器を活用した授業の交流

以前、韓国教職員招へいプログラムにもご協力させていただいたので、受け入れの可能性は十分にあると思います。

同志として

横浜市立永田台小学校

井口 将夫

話し声が大きかったり、車のクラクションをよく鳴らす中国の人の様子を見て、怒っているのだろうかと思っていた。しかし、教育現場で出会った子どもたちは姿勢がよく、人前ではっきりと話し、集中して学習に取り組んでいる姿や協調性のある姿ばかりが見られた。また、博物館を見学している時には、同じように見学をしていた子どもたちが私たち日本人を見るなり挨拶をしてきて、積極的に話しかけてきた。自己主張、自己表現がしっかりできるように力をつけている。これらのことを思うと、怒っていると思っていた言動・行動も、そうではなく自己主張をしっかりしていたと思えるようになった。日本の子どもたちにも自己主張をできるようになってもらいたい。教育現場では、道徳、健康、読書など自分たちが教育で大事にしていることと同じことを柱に学習を展開していた。これらのことを知り、同じ教師として、同志として交流しながら未来の光明のために励んでいきたい。

[今後への活用：学校において／中国との教育交流についての具体案]

以下の内容で、帰国後早いタイミングで交流する場を作り、得られた成果を活用していく予定である。

北京市光明小学の子どもたちに本校の子どもたちが作った折り紙を渡したので、それをきっかけに手紙等で交流を進めていこうと考えている。

まずは、朝会で全校に中国で撮影した映像を流し、簡単なクイズを行い、子どもたちがもっと中国に親近感を持てるようにする。子どもたちには、中国の子どもたちも日本のことを知りたがっているということを伝え、何か伝えたいことはないか子どもたちに問いかけてみようと思う。子どもたちから出てきたことを手紙等で光明小学校に伝え、返事がくれば交流のスタートとしていきたい。また、記念品としていただいた物を展示して、子どもたちが自由に見られるようにする。

[今後への活用：その他において]

中国に対して自分の中で偏見があったが、それが大きく逆転し、好感を持つようになった。中国と仲良くやっていくには、中国、中国人を知ることから始めなければならないと感じた。私は、ESD の柱として人権を大切に考えている。体験を語りながら、様々な国と友好の輪を広げていきたい。

分かり合うとは

阿南市立桑野小学校

久次米 晶文

本プログラムで初めて中国を訪問し、中国の教育に注ぐ情熱を感じた。「授業から世界を変える」ということに本気で取り組んでいる姿勢は、教員の資質を向上させる研修制度や、学校現場の充実した教育設備から伺うことができた。実際に交流した中国の先生方や子どもたちからは教育に対するハングリー精神を感じ、そのエネルギッシュな姿勢は非常に刺激になった。

また、文化施設の見学や自由時間に触れ合った現地の人々からは、中国の文化や生活習慣・価値観について学ぶことができた。私自身、それらすべてを受け入れることができたわけではない。しかし、その違いを認めて尊重することで、相互理解と友好を促進することができると改めて気付くことができた。

本プログラムでの学びや気付きを教育活動に還元することで、多文化を理解し、新しい価値観を持ち、持続可能な社会をつくる子どもの育成に貢献していきたい。そして、日中間のさらなる持続的交流を発展させることができればと考えている。

[今後への活用：学校において]

■児童に向けて

① 全校集会で写真と動画を使用し、学校訪問の様子やプログラムを通して自分自身が感じたことを紹介する。文化や生活習慣の違いを伝え、他者の文化の理解を促すことで、国際的な視点を持ち、持続可能な社会をつくることの価値観を育む。

②「日本人のアイデンティティの形成と他者のアイデンティティの尊重」をテーマに国際理解・人権教育の側面からアプローチする実践を予定している 6 年生の授業に、中国の交流校と本校教職員のコーディネーターとして実践を推進していく。必要であれば学校長の許可を得て担任とのティームティーチングで授業も行う。互いの文化や考え方の違いを尊重することで、21 世紀を主体的・創造的・他者と協調して行動的に生きる力を育む。

■教職員に向けて

教職員研修で中国の教育事情について報告する。教職員が地域創生とグローバルな教育観を持ち、教育課程・日々の授業を創造するきっかけとなるような内容にする。

[今後への活用：その他において]

■事務職員に向けて

阿南市事務部会での研修会で報告をする。ここでは中国の教育事情や文化・生活習慣に加え、中国教育部や安徽省教育庁との交流、また、学校訪問で行政的な視点から感じたことを発表する。

[中国との教育交流についての具体案]

関係機関から中国の学校を紹介してもらい交流する予定である。本校ではタブレットが積極的に活用されているため、インターネットやメールを使用し、絵や書道作品・音楽を通じて子ども同士の交流を予定している。

児童生徒の生き生きとした活動

神戸市立大沢中学校

小畑 幸一

特別支援学校の生徒が、支援を受けながら才能を発揮している様子に感動した。子どもは何らかの才能をもち、才能を開花する可能性があることを知った。すべての学校で教師は子どもたちに何らかの支援をしながら教育を進めていくが、取組次第であらゆる可能性が広がっていくことをあらためて認識した。

子どもは環境に育まれて成長する部分が多いが、掲示物等日々子どもの目に触れるすべてが大切であると感じた。在籍校でも取り入れていきたいと感じた。

上海市甘泉外国語中学の日本語教育のレベルの高さに驚いた。教材の開発や教育の実践について、これからも注目していきたいと思った。

日程中、様々な学校を見学させていただき、先生方の生の声に触れることができ、日本での実践にも役立てるヒントをたくさん得ることができた。大変有意義な活動に参加することができて感謝している。

[今後への活用：学校において]

本校の特別支援学級や通常学級において、生徒の学力の育成について考えていきたい。

中国の学校の様子を生徒や教員に紹介し、中国の学校ががんばっていることを伝えたい。

今、本校の 1 年生に他校と交流する下準備を進めている。できればどこかの学校と交流をしたいと考えている。

[中国との教育交流についての具体案]

まずは日本の他校と交流をして、他国へも広げていけたらと考えている。

大切なことは時間をかけてわかっていく

大阪府立渋谷高等学校

小田 歩

国交における民間交流の大切さを何よりも感じました。中国に対するイメージというのは日本国内にいるだけでは、偏ってしまうことがあるように昨今ますます感じます。その中で、今回行く先々で熱烈な歓迎を受けたという記憶は私にとっても、とても印象深いものでした。特に、年齢の近い教員と１対１で対話できたことはとても有意義なことでした。それぞれの教員が、「教員の質」というものをとても大切にしていて、教師の「徳性」が「上品」であることが教育の質を上げることにつながるというお話が印象的でした。また、様々な芸術によるもてなしも、心に残っています。ことあるごとに、この笑顔での歓迎を思い出します。

共に８日間を過ごした訪中団の皆様との会話が本当に有意義でした。同じ空間にいても感じること、考えることは異なっていて、そのひとつひとつの言葉を聴くことが私にとって本当に興味深いものでした。これからの自身の生き方が、このプログラムのおかげで変わりそうです。

[今後への活用：学校において]

学校においては、帰国直後に担当生徒全員に中国でよく食べられているというサンザシを配り、味覚や風土の違いについて考えるきっかけとしました。そして、地理の授業では実際に中国の様子を写真などを活用して紹介し、そして気候や食べ物について自分自身が触れて感じたことを話す予定です。

世界史の授業では、中国の長い歴史の中で作られてきた文化や考え方が現代にどのように息づいているのかを絡めて話す予定です。具体的には、博物館等の文化施設で触れた中国の雄大な歴史が、日本に住む生徒自身にも何らかの形で関わっているということを感じられるように映像なども利用する予定です。

総合学習の時間では、中国の児童・生徒がどのようにして学んでいるのかということを中心に紹介し、今後自分たちがどのように生きていくかということを考えるきっかけとしたいと考えています。

[今後への活用：その他において]

学外においては、地域の国際交流センターの場をお借りして、現地での学びを還元したいと考えています。具体的には、堅い話にならないように、中国に行ってみたい、中国のイメージが良いように少し変わったと思ってもらえるような時間を地域の方々と共に過ごせるように、話し合いなども取り入れる予定です。

[中国との教育交流についての具体案]

本校では、昨年度にアメリカからの高校生と半日の教育交流を行いました。その経験を生かし、長期間は難しいですが、短期間の授業での教育交流を行うことができればと思います。またよさこい部や茶道部、華道部などの日本文化を楽しむクラブが豊富にあるので、それらのクラブの体験を通しての交流も積極的に協力したいと考えています。また、本校のある池田市は、五月山動物園、チキンラーメン博物館などがあることから、海外からの旅行者からの人気がますます高まっているので、池田市内を中国からの皆さんと回るということも時期によっては可能だと思います。

今回、特に合肥市で多くの学校を訪れたことが、学校と地域との関係というものについて考えるきっかけになりました。学校のある場所を、他国からの生徒が訪れ何かを感じる様子を見て、日本側の生徒も自分たちのいる場所をもっと好きになってくれるのでは、と考えています。

教育に息づく中国の伝統文化

京都教育大学附属桃山中学校

大栗 真佐美

「中国の伝統文化は現代の教育の中でどのように継承され、日本では今回の交流で学んだことを参考にできうるのか。」この問いを解くことを中心に、今回のプログラムに参加した。日本の教育でも伝統的な言語文化などを学ぶことが推奨されている。では、中国、特に安徽省のように老子や庄氏の故郷、三国志や『史記』の垓下の戦いがあったとされている歴史上の場所を持つところでは具体的にどのような教育が行われているのか。

答えは、中国政府教育部でも「伝統文化教育を推進している」ということで、ほぼ全ての訪問校の教育活動の中に「伝統文化を継承する活動」がみられた。特に、孔子は孔子像の剪紙（切り絵）、語文（国語）や品徳・思想（道徳）、総合学習のなどで論語が引用され、三国志演義などの文学も演劇等様々な活動を通して学んでいた。

これらの学びは、自国の伝統や誇りを学ぶことになり、良い影響を与えると考えられる。また、学校の中には、日本の佐藤学氏の「学びの共同体」、『教師の挑戦』等を参考にしているということであった。このように

双方の国で行われている学びを参考に日本での伝統文化継承の教育活動等につなげていきたい。

[今後への活用：学校において]

生徒たちには、総合学習などの時間に国際理解教育として紹介していきたい。また、先生方には現在の中国の現状を知らせる機会を持ちたい。

[今後への活用：その他において]

＜京都教育大学での授業＞

教員を目指す学生に向けて、大学が推進している「グローバルな視点を持ちながら教育のグローバル化に向き合い実践できるグローカル教員となるために」の研究とからめて、授業を行った。具体的には、国語科の大学院で「中国政府日本教職員招へいプログラム（北京・安徽省・上海）参加を通して、「読むこと」を考える」と題して、国語の授業を中国の授業の実態から捉えなおすことを試みた。「読むこと」とは合肥市屯渓路小学から出された、図書館を中心に置いた「読むこと」教育の協議の内容である。「読むこと」について、合肥市屯渓路小学からの質問を投げかけて、日本ではどのようにしているかを話し合う機会とした。

[中国との教育交流についての具体案]

学校での教員交流（行事と重ならなければ）の可能性がある。今年は京都教育大学主催の中国との交流が 10 月にすでに決まっており、11 月の招へいプログラムと日程が続くため、それ以外の活動は時間的に難しいと考えています。

中国政府日本教職員招へいプログラムで学んだこと

奈良市教育委員会事務局学校教育課

岡本　英昭

中国政府日本教職員招へいプログラムで訪問した学校は、ICT 機器の整備、全天候型のグランドの設置など、設備が充実しており、快適な学習環境が提供されていた。授業ではパワーポイントが上手く活用されており、その内容も工夫されていた。教員が急に休んでも他の教員がそれを活用して授業ができるとの話があったし、パワーポイントで教材を作成すれば、自分の授業の進め方が可視化され、あとで授業内容をふりかえったり、授業の改善点もすぐさま変更できたりする、なによりも授業をどう進めたかが残せる等の利点があると感じた。

また、中国では都市部と農村部の教育格差が課題となっているため、それを解消するために教員の処遇を変える対策を行うなど、格差を何とか解消したいという思いがひしひしと伝わってきた。

教育とは別の話になるが、今回の訪問を通して、私は隣国である中国のことを全く知らないということに気付いた。私のこれまでの中国に対するイメージは、天安門の前を走る自転車の波であった。しかし、そのような光景は皆無で、高級外国車が道路を連なって走っていた。20 階以上はある高層マンションやきらびやかなショッピングセンターの存在は、私の中国のイメージを 180 度覆した。しかも、高級マンションは現在もどんどん建設されている。

しかし、私の心に一番残ったことは、出会った中国の人の優しさや明るさであった。私は日頃、新聞やニュースで見聞きすることから中国という国や中国に住んでいる人の像を作り上げていた。しかし、中国で出会った人の優しさや明るさは、日本人と全く変わらないことを知った。そして、改めて自分の目で見、自分の耳で聞き、自分の肌で感じることの大切さを実感した。

今回の中国政府日本教職員招へいプログラムに参加し、日本にいては知ることのできなかった中国の教育事情とともに、中国という国やそこに住んでいる人について知ることができ、とても良かったと思っている。

[今後への活用：その他において]

中国の教育について、研修などを通して、広く伝えていく。

[中国との教育交流についての具体案]

＜中国教職団の受入れ＞

小・中・高等学校を訪問いただき、児童・生徒及び教員との交流を図る。

奈良にある世界遺産を訪問いただき、遺産を通した文化的な交流を図る。

国際的な視野

横浜市立日限山中学校

島ノ江　正浩

今回、中国政府日本教職員招へいプログラムに参加し、現地の教育部や教育機関、文化施設などを訪れ、様々な体験をすることができた。その中で、現地の先生や児童・生徒と触れ合い、中国の教育現場が活気にあふれていると強く感じた。勉強だけでなく、

スポーツや芸術など、いろいろな分野で、先生方の日々の熱心なご指導と子どもたちの努力の成果が見られて、感銘を受けた。また、自国の文化を大切にし、教育活動を行っているところに感心した。

私は、中国はもちろん、外国を訪れることが初めてであったこともあり、外国のことを意識した教育活動をほとんどしたことがなかった。しかし、今回のプログラムを通じて現地の人と交流し、私は国際社会の中の一人の日本人であり、日本と中国、日本と外国についてとても意識するようになった。外国を意識して、教科指導や生徒指導、学校行事、地域や保護者との関係など、教育活動について考えるようになった。これからは、「国際的な視野」をもち、教師として子どもがよりよく心身ともに健やかに成長できるように努力していきたい。

[今後への活用：学校において]

私が中国に行って、実際に見て聞いて感じたことを、全校集会などの時間を利用し報告会を行いたいと考えている。限られた時間の中で、中学生が興味をもって話を聞けるように内容を精選し、生徒が中国について意欲的に理解を深められるように報告をしていきたいと思う。

また、普段の教科指導や人権教育等の中で、中国の芸術や文化、習慣などを大切にしながら、教育活動を行っていきたいと考える。

中国訪問について、生徒だけでなく、職員に向けての報告会も国際理解研修などを通じて行っていきたいと考える。職員の中で、中国の文化全般への理解を深めたり、これからの教育活動の質を高めたりできるように努力していきたい。

[今後への活用：その他において]

保護者や地域とのかかわりの中で、外国の方と接する機会がこれからますます増えてくると思う。今回プログラムで学んだことを生かし、相手の国の習慣や文化の理解を深めながら、お互いがより良い関係を築き上げることができるように努力していきたい。

[中国との教育交流についての具体案]

私たちが中国の学校を訪れ、授業見学や発表会、交流会などに参加したように、今年の 11 月に中国の先生たちが訪れ、交流会などを行うことを企画している。内容については、まだ計画段階ではあるが、中国の先生方が日本の学校を訪れ、何をしたいのか、今回、私たちがプログラムの中で経験したことを生かし、考えていきたい。具体的には、各教室で行われている授業の見学や、先生たちとの意見を交換する交流会を行いたい。また、部活動の見学なども検討している。

その先の計画は特にないが、国際理解教育を持続的に深めていくことができるように努力していきたい。

これからのグローバル人材育成を見据えた心の教育の実践へ

ぐんま国際アカデミー中高等部

山﨑　一以

今回の訪問を通して、中国という経済大国における教育実践の進捗状況や教育環境及び施設の充実、また、教育の発展段階に至る中での現在の課題や取り組み事例などを実際に見学したり意見交換したりすることによって、その成長スピードの速さや順応性と質の高い国民性を肌で実感することができた。

特に、設備投資においては小学校から ICT を備えた授業の実践や図書館設備の充実、そして、中学校、高校での構内にある寮生活スペースや書店、食堂、屋上バーベキュー広場の確保など、生活の要素を備えた広大なキャンパスとともにリラックスルームや IT フロアなどもあり、初等・中等教育の段階で一つの先進的な文化が備わっているという教育環境を目の当たりにすることができた。

さらには施設の充実だけではなく、「心」という人間の内側の教育環境の充実にも力を入れているところが強く印象に残った。「ハード面という外側の発展と同時にソフト面という内側の成長なくして、真の教育発展は望めない」という、中国古来の徳の文化と現在の経済発展における物質の豊かさを共存させるという中国の教育理念に、改めて教育の本質を再認識させられる瞬間でもあった。

[今後への活用：学校において]

今後の日本の教育、そして中国との理数科教育における共同開発教育分野の先駆けとして、これからも世界をリードしていく人材を育成するための教育活動をしていきたいと思う。特に、グローバルな視点で物事を捉えたときに、中国の文化を取り入れなくして今後の教育の発展は不可欠であると考える。

本校の教育は英語という言葉の趣に左右される部分が多くあり、全体的に欧米の文化に偏っている面も多い。表面的な言葉だけの教育では人間の資質を磨くということにはつながらないことを今回のプログラムで改めて実感した。物事の本質を見出す教育を見つめ直すいい機会であるように思う。

人としてどうあるべきかを問い続ける上で、中国四千年の歴史から学ぶことは大きな意義をもつことにもつながるし、頭の良さだけではなく模範となるべき道徳観を備えた人材育成を掲げているところに、これからの中国の発展における偉大さを垣間見ることができた。また、語学の学習においても日本に対しての尊敬の念を持った上での教育や学び、人としてどうあるべきかをよく見据えた人材の育成がされていた。

これらのことを踏まえて、今後、道徳や総合的な学習の時間における授業での生徒への中国の教育文化の発信や職員研修などでの発表をしていく予定である。

[今後への活用：その他において]

理数科教育という視点に立ったとき、PISA の学力調査でアジア諸国が上位の学力を占めるということの位置づけを踏まえて、まずは読み、書き、計算を培った上での基礎教育の意義を改めて再認識することができた。これからもさらに大きな教育実践の場を活かした研究開発とともに、その先駆けとなる機会を教育の場において与えていきたいと思う。今後は物理教育学会などの発表の場においても、日本、中国、北米及び中米における理数科教育の変遷と課題というテーマについて発信していきたいと考えている。

[中国との教育交流についての具体案]

中国の現地の生徒と円滑なコミュニケーションが取れる段階で、現在本校が北米の生徒を中心に行っているようなホームステイの受け入れや授業体験などの交流ができると考えられる。

また、太田市国際交流課を中心として、市内の学校の見学や教員間の情報交換など今後、中国の学校、教員、児童・生徒との教育交流を推進する機会があれば、ぜひ推進していきたい。

課外活動も授業も教師の指導力が重要

奈良市立一条高等学校

吉川 直和

私は高校で卓球を指導しているので、ラケットを持参して中国の小学生と実際に卓球をしたいと考えていた。卓球を見ているだけでは、生徒の実力は判りづらいので、実際に中国の小学生と卓球をさせていただいたところ、クラブ活動をしている日本の中学生、高校生と同じぐらいの実力があることが判った。中国の生徒の上達が早いのは、卓球の専門家が熱心に生徒を指導しているからだと思う。

また、ロボットコンテストで世界一位をとるなどすばらしい戦績を挙げている生徒がいた。ロボットを動かすのに必要なプログラミングや、その製作を指導できる教師がいないと世界一位にはなれなかっただろうと思う。何かを生徒に教えるには、教師自身がそのことに精通していなければならない。これらの知見は中国の生徒と交流してはじめて実感できたのではないかと思う。また、このプログラムで得た知識や経験を日本の生徒に伝えていきたいと考えている。

[今後への活用：学校において]

中国で得た知見を整理し、発表用のスライドを作成する。作成した資料を用いて、まず歴史などを得意とする人文科の生徒に中国の教育事情、訪問した学校の生徒の様子、授業風景や放課後の活動について紹介し、生徒が一番興味を持ったことや感想などを聞く。

同様に、外国語学科の生徒に中国の学校、教員、児童・生徒との教育交流をスライドで紹介する。特に、上海市甘泉外国語中学の生徒との交流について多く説明する。数理学科の生徒に対しては、合肥第八中学校の教員・生徒との教育交流を中心に紹介し、感想などを書いてもらう予定。

[今後への活用：その他において]

日本は資源もなく、あるのは人的資源だと思う。将来はアジアの一員としてアジアの人々と仲良くやっていかなければならないと思う。特に、中国とは交流を通して、お互いを理解することが重要であることを生徒に伝えていこうと思う。

[中国との教育交流についての具体案]

本校の外国語学科では、第 2 外国語として中国語を履修している。中国の教員や児童・生徒が本校を訪問した場合、中国語の授業の見学などの教育交流ができると思う。また、英語国際活動部（EIC）クラブには中国からの留学生が所属しているので、クラブの生徒たちと英語や中国語を用いての交流も可能だと思う。

随行者のコメント

国際連合大学　大学院　事務局長
古田　知美

北京、安徽省、上海の教育部、教育庁、各教育機関訪問にあたり、多くの方々に歓待いただき、見学や質問に丁寧にご対応いただきました。このプログラムをご支援いただきました、日中の関係機関の皆様に改めて感謝申し上げます。

今回の訪問を通じて、ご参加の先生方は、熱心にご見学されて、積極的に質問し、できる限り中国の教職員・生徒との交流を持とうと意欲的に行動されていました。また、参加者同士の交流を通じて、改めて日本の教育の在り方について、折に触れてご議論されている姿が印象的でした。先生方の熱意とご努力で、一層実りの多い訪問となりましたことに感謝申し上げます。

今後とも、この事業が日本と中国の教育交流の推進に繋がっていくことを期待しています。

文部科学省　初等中等教育局
特別支援教育課　特別支援教育調査官
萩庭　圭子

この度の中国政府日本教職員招へいプログラムに随行させていただきまして、ありがとうございました。中国教育部をはじめ、北京、安徽、上海の各教育行政機関にご高配いただき、大変充実した視察・交流を行うことができました。これも一重に、長年続けてこられたこのプログラムの意義、期待があるからだと思います。

訪問させていただいた学校は、教育環境が整い、児童生徒が熱心に学んでいました。大学入試の厳しさも知ることができましたが、それ以上に、それを乗り越えて自ら未来をつかみ取ろうとする生徒の意欲が感じられました。

安徽省の特別支援学校では、生徒による伝統芸能の数々を拝見することができました。練習を重ね、努力してきたことが見るものの心を打つ演技になったのだと思います。大きな拍手をもらって満足そうに微笑む生徒たちを見て、学ぶことが子供たちを成長させるのだと、あらためて実感しました。

参加された先生方の熱心さが、今後の両国交流を一層深めてくれると期待しております。

ユネスコ・アジア文化センター
人物交流部　有薗　佳子

本事業の随行は、今回で 3 度目となりました。毎度のことですが、今回もとても充実した日程をご用意いただき、中国教育部をはじめとする関係機関の皆さまに心より感謝申し上げます。

本事業は、中国の教育制度や教育事情を学ぶだけでなく、中国の方と交流することが目的の1つでもあります。参加される日本の先生方が、中国の教育関係者や児童生徒と積極的に交流することで、日中間の交流を促進させ、両国の教育の質の向上に寄与することを目指し、この 3 年間事業を担当してまいりました。

今回の訪問団には、これまでになく中国語がわかる参加者が多くいらっしゃり、期間中は中国の方と積極的にコミュニケーションを取ろうという姿勢が見受けられました。担当者としては嬉しく思う限りです。本事業をきっかけとし、今後も参加者と中国との交流が継続していくことを願っております。

ユネスコ・アジア文化センター
人物交流部　高松　彩乃

国際教育交流事業において、今回初めて中国へのプログラムに随行させていただきました。プログラムの実施にあたりご尽力いただいた全ての方に、感謝申し上げます。

国際教育交流事業に随行しながら毎回感じることですが、外国の学校の中に入り、交流することは非常に貴重な経験です。訪問を終えて、先生方が寄せられた所感の多くに「メディアを通して見聞きする中国とは全く別の姿を見ることができた」という内容が含まれていました。先生方が現地で見たものを日本に戻って同僚の方や子どもたちに還元していくことは、国際教育交流事業が目指す「相互の理解と更なる交流」を推進するうえでとても大切なことです。今回参加された先生方が、そしてその経験を共有した大人や子どもたちが、日本と中国の架け橋になっていかれることを大いに期待しています。